



A 桜・ミヤコワスレ

春、境内は珍しい種類の桜と可憐なミヤコワスレの花が咲きほこり、訪れる人々をやさしく出迎える。



B 安宮神社の木像

木妻殿には約160体の木製神仏像が祀られている。神仏習合の修那羅独特な木像が見られる。



C 猫神

南参道上の石祠前に祀られた一対の猫像。丸彫りの体に縞模様が刻まれたトラの像容。唐猫様といわれ養蚕^{そがい}の鼠害を防いだ神像。



峠を登り詰めると、そこは別世界。最後の山伏の修那羅大天武が開いた聖なる場所の安宮神社。日差しをさえぎるブナやクリが繁る林の中に猫神や狼神、鬼や蚕神、お地藏さんに大日如来、手をつないだ姉妹像、さまざまな表情の石神仏たちと腰巻きが奉納された子安様。石神仏の間を歩くと俗世間から切り離されたかのような神々しい空気が漂い、不思議な感覚に包まれる。庶民の祈りや願いに彩られたこの地は、パワースポットとして、若者や若い夫婦にも人気。歩くだけで特別な想いが湧いてくる修那羅の石神仏に、あなたも逢いに来ませんか。

宮下健司

宮下健司氏－元長野県史常任編集委員・元長野県立歴史館総合情報課長

●交通のごあんない

- ・車をご利用の方は長野自動車道麻績ICから安宮神社駐車場まで約20分
- ・JR篠ノ井線 聖高原駅からタクシーで安宮神社駐車場まで約20分
- ・上田駅から車・タクシーで安宮神社駐車場まで約40分
(安宮神社駐車場から神社まで徒歩5分)



この冊子は、「長野県地域発 元気づくり支援金」事業で制作しました。

筑北村教育委員会

〒399-7711 長野県東筑摩郡筑北村坂井5687-2

TEL 0263-67- 2064 FAX 0263-67- 2170

http://www.vill.chikuhoku.lg.jp

E-mail shougai@vill.chikuhoku.lg.jp

平成29年12月作成



不思議な石神仏たちの想い
しよならさん

Yasumiya Jinja
SHONARASAN
MAP



十一面観音

修那羅山安宮神社石神仏群ガイドマップ



D 石祠

境内には石祠が109基奉納され、そのうち40基が一箇所に並ぶ。上田城主松平伊賀守と松本城主松平氏が、修那羅さんに病氣治療の修法や、加持祈祷によるご利益の御礼に寄進された。



E おんながみさま 女神様(子安様)

安宮神社は元来、子安神として安産、子育て祈願が盛んであった。社の前には幾重にも腰巻が奉納され、その信仰は現在も続いている。社の中には女神像が三体安置されている。

修那羅の石神仏群 ガイドマップ



F 大岩の石神仏

大岩に抱かれた石神仏たちの不思議な世界。生命力と霊の神秘さを感じられる“しよならの神秘スポット”。





修那羅大天武と不思議な石神仏たち

安宮神社と大天武

修那羅山安宮神社は、長野県東筑摩郡筑北村坂井舟窪山（1,037m）に鎮座する。万延元年（1860）江戸時代最後の修験者であった修那羅大天武により創建された。地元では「しよならさま・しよならさん」と親しみを込めて呼んでいる。修那羅大天武は寛政7年（1795）春、現新潟県妙高市大鹿で望月政右衛門の子として生まれ、9歳の時天狗に従って家を出て全国各地を修行し、著名な修験道場や霊場をめぐり約60年間の修行を積み、霊験を得て安宮神社の開祖となった。加持祈祷（ふでかくら 筆神楽の法）をもって当時の人々の信仰をあつめた。明治5年9月（1872）秋に現長野市篠ノ井塩崎で客死し、78歳の生涯を終えた。明治36年（1903）に『修那羅山安宮神社』と改称され今日に至る。

石神仏と桜

境内には808基もの石神仏・石造物が祀られている。石神仏の特徴は神仏習合のものが多く、「民間信仰の縮図」といわれている。修那羅さんへの庶民の願い事がこめられ、諸願成就の感謝として奉納されたものである。像容は自由奔放でバラエティーに富み「修那羅調」といわれる独得な形である。造立は江戸時代末から明治時代前期が最も多く、現在も奉納が続き不思議な石神仏たちの世界が広がっている。また、拝殿左側（きづまでん 木妻殿）には約160体の木神仏も祀られている。境内は桜の名所としても名高く、5月中旬には珍しい種類の桜が満開となる。紅色の華麗な楊貴妃桜、黄色い八重の花をつける黄金桜（右近桜）、花芯から二葉を出し淡紅色の花が咲く忠度（ただのり）桜である。また、6月中旬に一面に咲きほこるミヤコワスレの花も見事である。

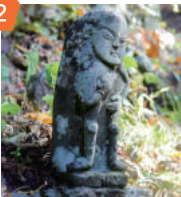
特徴的な石神仏の紹介

1



修那羅大天武（高 70cm）大天武の死後、土地の人々が古人の言い伝えをもとに、彼の偉大さを称えて像を奉納。境内で最も大きく高い石像で、身の丈五尺七寸（約1m73cm）の大男であったといわれる風貌が伺える。

2



風神（高 40cm）髪を後ろになびかせて垂れ下がった像容から風神像と思われる。二百十日の無事と五穀豊穡を祈願し奉納された。里の風祭りには、田に「おんべ」を立て祀る風習が今も坂井地区に残っている。

3



ついでじん
対神（高 42cm）弁財天にあやかって彫られた対神像。女性の福の神として祀られたものであろう。穏やかな顔つきだが、威張った印象も強い。

4



かいこがみ
蚕神（高 53cm）十二単衣をまとった姫神像は、蚕の白く美しい化身としての蚕神様（こかげさま 蚕影様）で、蚕の成育を祈願して祀られたものであろう。

5



猫神（高 22cm）／（高 30cm）農家では養蚕に害をなす鼠を防ぐために猫を飼う、それを神聖化し猫像として祀った養蚕の神様。丸彫りで柔らかさを表現した猫神像。

6



鬼神（高 49cm）十王に従う赤鬼、青鬼の仲間。頭には角が彫られ、右手は胸に左手を腹にあてた修那羅特有のポーズをとる。猫神に挟まれ三体セットの主神であらう。

7



千手観音（高 48cm）裏面に「千手観音」と刻まれている。自然石を浮彫りにした四面十臂の千手観音である。省略化され平面的だが単純素朴で、修那羅仏の典型である。

8



千手観音（高 57cm）佐久間象山が修那羅さんの神徳に感謝して奉納されたという言い伝えがある。最も姿形が整った石仏。幕末に松代藩領の石工により彫られたものであろう。

9



山犬（高 35cm）ワニの様な口、狼にも見える山犬像は、三峯信仰で名高い三峯神社のお犬様。田畑の猪、鹿の害の防除と火災盗難除け、疫病除けの守り神として祀られた。秩父の三峯さんは現在でも盛んに信仰されている。

修那羅山安宮神社石神仏・木神仏は、昭和44年3月30日、筑北村文化財に指定されています。

10



さいやき大明神（高 46cm）手に笹を持ち、前面に「さいやき大明神」と刻まれている。山笹を焼き病害虫駆除と耕作地拡大のために祀ったものである。

11



銭謹金神（ぜに神様）（高 44cm）前面に「銭謹金神」と刻まれている。丸と四角の穴あきの銭を持つ。庶民が日々の暮らしに必要なお金を得られるようにと奉納した。修那羅調の独特な形で、他にも同じ形の像が二体ある。

12



父子像（高 42cm）父が子の指や腕首に木綿糸を結び、独り立ちするまでの間、魂を五体に引留めておく風習があった。父親が子供の成長祈願のために奉納したものであろう。

13



姉妹像（高 38cm）裏面に「元治元年 鬼無里きなし 菅屋地村倉吉」と刻まれている。あどけない姿の双体童児像。両親が姉妹の健やかな成長祈願に奉納したものであろう。これほどまでにほほえましい表情の神像は他には見当たらない。

14



酒泉童子（高 36cm）餅つきなら豊作を、水汲みなら水の豊かさを、酒屋ならよい酒がでるようにと祈願して祀られた。酒の神様、または酒泉童子像として奉納されたものであろうか。

15



甲冑の武人（高 34cm）鉄兜をかぶり、長い刀を差し鎧をまとった、しっかりとした体つきの武人に見える。いくさの神として祀られたものであろう。

16



十一面観音（ブナ観音）（高 25cm）ブナの木肌にすっぽりと抱きかかえられ可愛い顔をのぞかせている。自然の生命力と霊の神秘的な結合を物語っている観音像。俗称「ブナ観音・樹胎仏」と呼ばれ最も人気の石仏。

17



猿田彦（高 46cm）燃え上がる炎のような髪型、猿のような表情で、岩の上に立つ神像は、猿田彦として祀られている。この髪型は修那羅独特の形で他にも数体見られる。

18



人面獣身神（高 38cm）表面に刻まれている「機橋杵」はコンコウサマと読む。稲荷信仰として土地の人は、オイナリサン・オコンコウサマと呼ぶ。狐の憑きもの落とし祈願のために奉納された神像。

19



ばしょうがみ
馬上神（騎馬武者像）（高 33cm）怒った顔の武人、とぼけた顔の馬と漫画的なユーモラスな神像。このような奇妙なアンバランスさが、修那羅の石像の魅力である。

20



子育て観音（丸彫り母子像）（高 37cm）子供の成長に願いを込めた子育て観音。修那羅独特の丸彫りで、なで肩の裸座像。他にも同じ形の像が三体ある。

21



うこつじん
宇古津神（高 33cm）表面に「宇古津神文久三癸亥稔」と刻まれている。宮司の伝承では、宇古津とは死者の霊と関係ある神であろうとのことである。炎のような髪型は修那羅独特の形で、横にも同じ形の地藏像がある。

22



ヤットコを持つ鬼神（高 40cm）「うそをつくと閻魔様に舌をぬかれるぞ」と知らぬ者のない話である。その言い伝えを表現した石像。

23



しょうかんのん
聖観音（高 37cm）蓮の花を持つ聖観音。素朴なほほえましい顔つきで、頭の三角は帽子のように見え、ユニークな姿である。他にもう一体同じ形の像がある。

24



神農（高 48cm）深い丸彫りで、ひげをたくわえた山伏のような姿から、天狗の像とみられる。稲束をくわえ、手に持っている姿から稲田の成育を守る神農として祀られた。

25



蔵王権現（高 41cm）火炎を背後に激怒した顔で、左手は剣印を結び腰に置き、右手は宝剣を高く掲げる。左足は岩を踏み、右足は空中に踊らす像容。修験道の本尊として祀られた。

26



まりしてん
摩利支天（高 44cm）猪に跨り天を駆ける像容。石仏としては少なく、極めてまれな存在である。神通力があり眼に見えぬ神で、護身、遠出等の守り本尊として武人の間で広く信仰されていた。

27



鬼神（高 50cm）／（高 46cm）／（高 56cm）金槌、金棒を持ち、金槌を振りかざす鬼神像3体が、山頂近くの一ヶ所に祀られている。民話の中にも登場する鬼たちの姿である。

修那羅の 石神仏群 ガイドマップ



A 桜・ミヤコワスレ

春、境内は珍しい種類の桜と可憐なミヤコワスレの花が咲きほこり、訪れる人々をやさしく出迎える。

B 安宮神社の木像

木妻殿には約160体の木製神仏像が祀られている。神仏習合の修那羅独特な木像が見られる。



C 猫神

南参道上の石祠前に祀られた一対の猫像。丸彫りの体に縞模様が刻まれたトラの像容。唐猫様^{そがい}といわれ養蚕の鼠害を防いだ神像。

D 石祠

境内には石祠が109基奉納され、そのうち40基が一箇所に並ぶ。上田城主松平伊賀守と松本城主松平氏が、修那羅さんに病氣治療の修法や、加持祈祷によるご利益の御礼に寄進された。



E おんながみさま 女神様(子安様)

安宮神社は元来、子安神として安産、子育て祈願が盛んであった。社の前には幾重にも腰巻が奉納され、その信仰は現在も続いている。社の中には女神像が三体安置されている。



F 大岩の石神仏

大岩に抱かれた石神仏たちの不思議な世界。生命力と霊の神秘さを感じられる“しょならの神秘スポット”。

